

有田・小田部 58

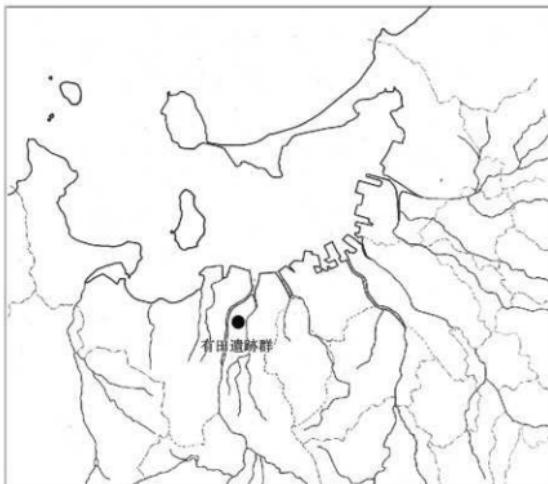
— 有田遺跡群第263次調査の報告 —

2 0 1 8

福岡市教育委員会

有田・小田部 58

— 有田遺跡群第263次調査の報告 —



調査略号 ART-263

調査番号 1546

2 0 1 8

福岡市教育委員会

序

古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、数多くの文化財が残されています。その中でも早良平野は大陸との交流が古くから栄え、数多くの遺跡が残されています。これらの文化財を保護し、後世に伝えることは本市に課せられた責務あります。しかし、近年の著しい都市化により、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市ではそのような開発によってやむを得ず失われていく遺跡について事前に発掘調査を行い記録保存に努めています。

本書は、共同住宅建設に伴う有田遺跡群第263次発掘調査について報告するものです。この調査では、古墳時代から古代にかけての集落を確認することができました。これらは早良平野の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後に事業主様をはじめとする多くの関係者の方々には、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成30年3月26日

福岡市教育委員会
教育長 星子明夫

例　言

- 本書は、福岡市早良区小田部2丁目58における共同住宅建設に先立ち、福岡市教育委員会が平成28年3月10日から平成28年6月10日にかけて発掘調査を実施した有田遺跡群第263次発掘調査の報告である。
- 発掘調査は上記の主体により行われ、調査は福岡市埋蔵文化財課 山本晃平・山崎龍雄が担当した。
- 報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
- 本書に掲載した遺構の実測図作成は、山本・山崎が行った。
- 本書に掲載した遺物の実測図作成は山本が行った。
- 本書に掲載した遺構及び遺物の写真撮影は山本が行った。
- 本書に掲載した挿図の製図は山本が行った。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 本書で用いた座標は世界測地系による。
- 調査で検出した遺構については、通し番号を付している。
- 本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管され、活用されていく予定である。
- 本書の執筆・編集は山本が行った。

有田遺跡群第263次発掘調査基本情報

遺跡名	有田遺跡群	調査次数	第263次	遺跡略号	ART-263
調査番号	1546	分布地図図幅名	原82	遺跡登録番号	0309
申請面積	499.77m ²	調査対象面積	330m ²	調査面積	242.9m ²
調査期間	平成28年3月10日～平成28年6月10日			事前審査番号	27-2-845
調査地	福岡市早良区小田部2丁目58				

本文目次

第1章 はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
3 遺跡の位置	4
第2章 調査の記録	5
1 調査の概要	5
2 遺構と遺物	5
1) 掘立柱建物	5
2) 溝	7
第3章 まとめ	8

挿図目次

第1図 有田遺跡群位置図 (1/25000)	2
第2図 有田遺跡群第263次調査地点位置図 (1/300)	2
第3図 有田遺跡群第263次調査地点全体図 (1/100)	3
第4図 I区調査区東壁土層断面図 (1/60)	4
第5図 I・II区調査区東壁土層断面図 (1/60)	4
第6図 掘立柱建物01・02・03 (1/80)	6
第7図 溝002実測図 (1/80)	7
第8図 溝002出土遺物 (1/4)	8
第9図 古代官道関連の大溝 (1/2000)	9

図 版 目 次

- 図 版 1 (1) 1区調査区全景（西から）
(2) 2区調査区全景（西から）
(3) 3区調査区全景（東から）
- 図 版 2 (4) 1区調査区東壁土層断面（西から）
(5) 掘立柱建物01（東から）
(6) 溝002（西から）
- 図 版 3 出土遺物

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

平成27年12月15日付に福岡市早良区小田部2丁目58の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書が福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財審査課に提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である有田遺跡群に所在し、周辺の確認調査・発掘調査において遺跡の存在が確認されている。そのため、当該地にも埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断し、平成28年1月18日に確認調査を行った。その結果、北側で地表面から120cm下で、南側では80cm下で鳥栖ロームに達し遺構を確認した。これらから埋蔵文化財審査課では、遺構の保全に関して申請者と協議を行った。

その結果、共同住宅建設において埋蔵文化財への影響を回避できないことから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。そして平成28年3月7日付で事業者である株式会社ウェルホールディングスを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年3月10日から発掘調査を行い、平成28年6月10日に終了した。

2 調査の組織

調査委託：株式会社ウェルホールディングス

調査主体：福岡市教育委員会（発掘調査：平成28年度・整理報告：平成29年度）

調査総括：経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課

課長 常松幹雄（28・29年度）

調査第1係長 吉武学（28年度）

調査第2係長 大塚紀宜（29年度）

調査庶務：同課

管理係長 大塚紀宜（28年度）

管理係 入江よう子（28年度）

文化財保護課管理調整係 松尾智仁（29年度）

事前審査：同課

事前審査係長 佐藤一郎（28年度）

本田浩二郎（29年度）

主任文化財主事 池田祐司（28・29年度）

文化財主事 大森真衣子（28年度）

中尾祐太（29年度）

調査担当：同課

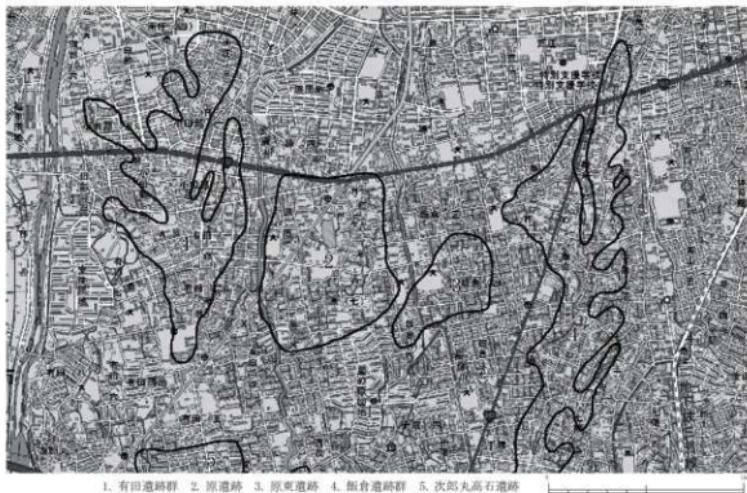
文化財主事 山本晃平（28・29年度）

山崎龍雄（28年度）

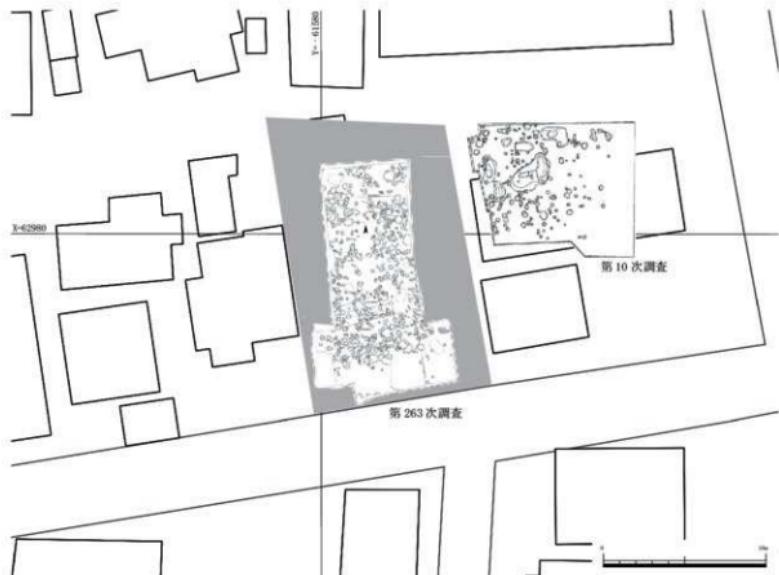
発掘作業 今村良輔、岩永いさ子、上野道郎、瀬戸啓治、高橋茂子、時吉ひとみ、中村秀作、

西美由喜、西藤勝喜、深溝嘉江、馬奈木留雄、吉安秀三、脇田誠二

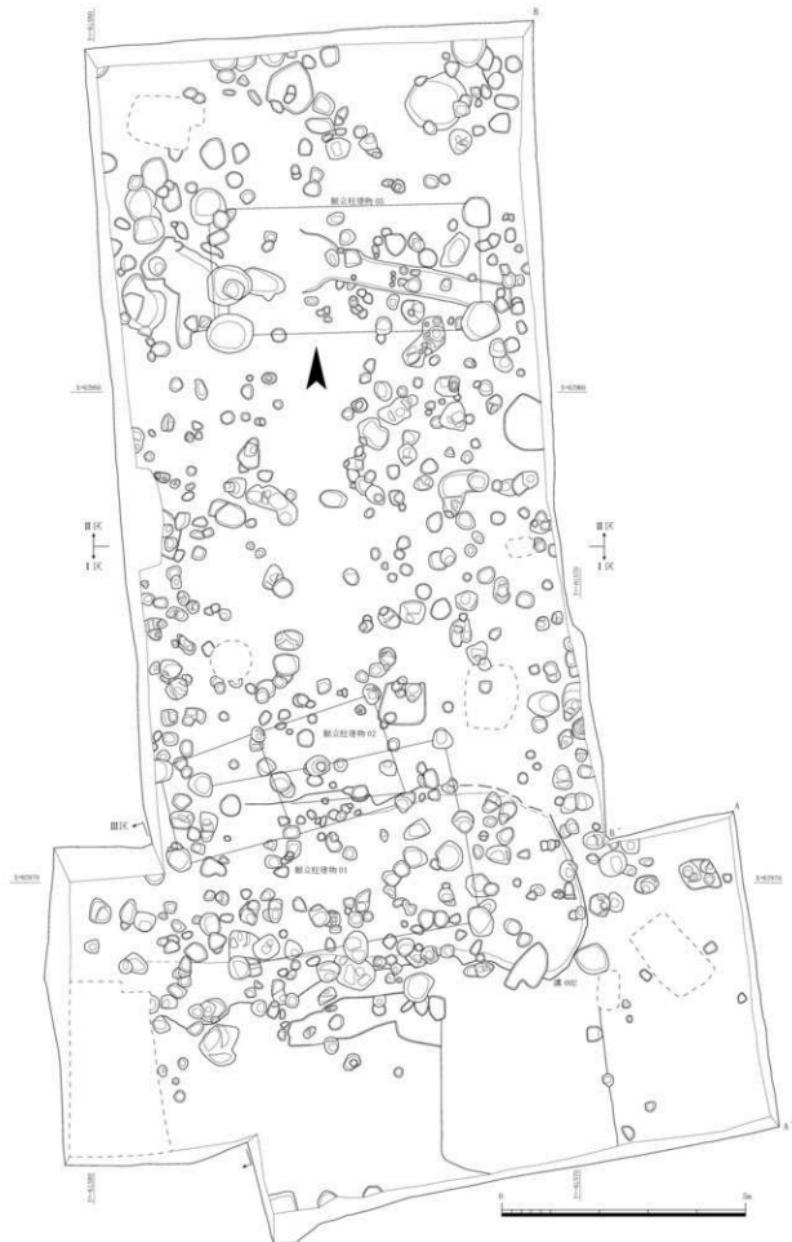
整理作業 岩隈香歌里、江尻美鈴、豊田忠一、堀江一美、八木一成



第1図 有田遺跡群位置図 (1/25000)



第2図 有田遺跡群第263次調査地点位置図 (1/300)

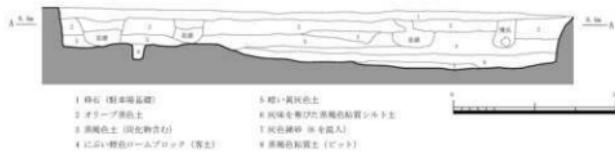


第3図 有田遺跡群第263次調査地点全体図 (1/100)

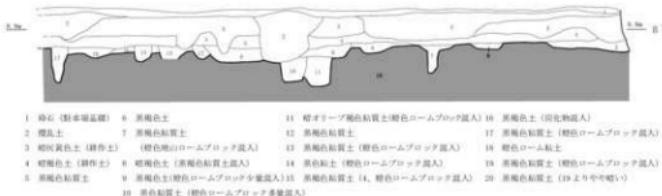
3 遺跡の位置

有田遺跡群は早良平野の北側、室見川右岸にある独立中位段丘上に立地している。この段丘は南北約1.7km、東西約0.7kmに広がり、遺跡中央の最高所では標高約15mをはかる。室見川や金屑川による浸食を受けたため、大小の谷が形成され、北に八手状に広がる独特な形状を呈している。

本遺跡群は旧石器時代から近世までの複合遺跡である。1967年の区画整理事業に伴う九州大学考古学研究室による第1次調査を端緒とし、1975年以降は本市教育委員会を主体にこれまで263次を超える調査が行われてきた。旧石器時代の遺物は出土しているものの遺構に伴う明確なものはなく、後世の大規模な削平により当時の状況を明らかにするまで至っていない。縄文時代も全容は不明だが、台地南西部で貯蔵穴群が検出されている。弥生時代に入ると、台地の各屋根上に遺構・遺物が分布する。台地高所に断面V字形の環濠が認められ、各地に集落が展開する。ただ後期になると遺構数が概ね減少している。古墳時代では軟質土器や陶質土器が多く出土し、朝鮮半島とのかかわりを窺うことができる。古代にかけて大型の倉庫群や建物群が造営され、早良郡衙の正殿とされる建物群も見つかっている。中世では戦国期の遺構が頗著に見られ、濠で区画された遺構群が各所で確認されており、大内氏の支配下で設けられた郡代や在地の有力土豪の城館の可能性が考えられている。



第4図 I区調査区東壁土層断面図(1/60)



第5図 I・II区調査区東壁土層断面図(1/60)

第2章 調査の記録

1 調査の概要

今回報告する有田遺跡群第263次調査は、福岡市早良区小田部2丁目58に所在する。調査地点は北へ八手状に分岐して広がる有田・小田部台地の有田遺跡群の一番東側に位置する台地の西側斜面上に位置する。

遺構検出は重機で遺構面である鳥栖ローム上面まで剥ぎ取って実施した。調査区南側では表土から約60cm下で、北側は表土から約120cm下で遺構面となる。およそ南側から北側に向けて遺構面が傾斜している。遺構の残りは良く、削平はあまり受けていないと思われる。検出遺構は掘立柱建物3棟、溝1条、その他多くの柱穴・ピットを確認した。出土遺物はコンテナ23箱分である。

発掘調査は平成28年3月10日に着手した。まずは重機で遺構面上面まで剥ぎ取りを行い、並行して発掘器材の搬入などを実施した。廃土置き場を確保するために調査区を3分割して調査を行った。まず南側半分をI区として調査し、4月20日に終了した。次に土砂を反転して北側半分をII区として4月25日から調査を行い6月1日に終了した。最後に敷地の入口部分であった南西側をIII区として6月2日から開始し6月6日に終了した。その後発掘器材等を撤収して6月10日にすべての調査を完了した。

2 遺構と遺物

以下、遺構種別ごとに調査遺構及び出土遺物について報告する。

1) 掘立柱建物

掘立柱建物01（第6図、図版2）

調査区の南側で確認された2間×2間の建物である。溝002より新しい。主軸方位はN-74°-Eである。梁行約380cmをはかり、柱間は約180～200cmである。桁行は約500cmをはかり、柱間は約130cmである。柱穴の平面形は円形で、径約40～60cmをはかる。

出土遺物

各柱穴から土師器片、須恵器片などが出土しているが、碎片のため図化できていない。

掘立柱建物02（第6図）

調査区の南側、掘立柱建物01に重なるように確認された1間×2間の建物である。ただ掘立柱建物01とは切りあっていないため、前後関係は不明である。溝002より新しい。主軸方位はN-70°-Eである。梁行は約220cmをはかる。桁行は約460cmをはかり、柱間は約220cmである。柱穴の平面形は円形で、径約30～40cmをはかる。

出土遺物

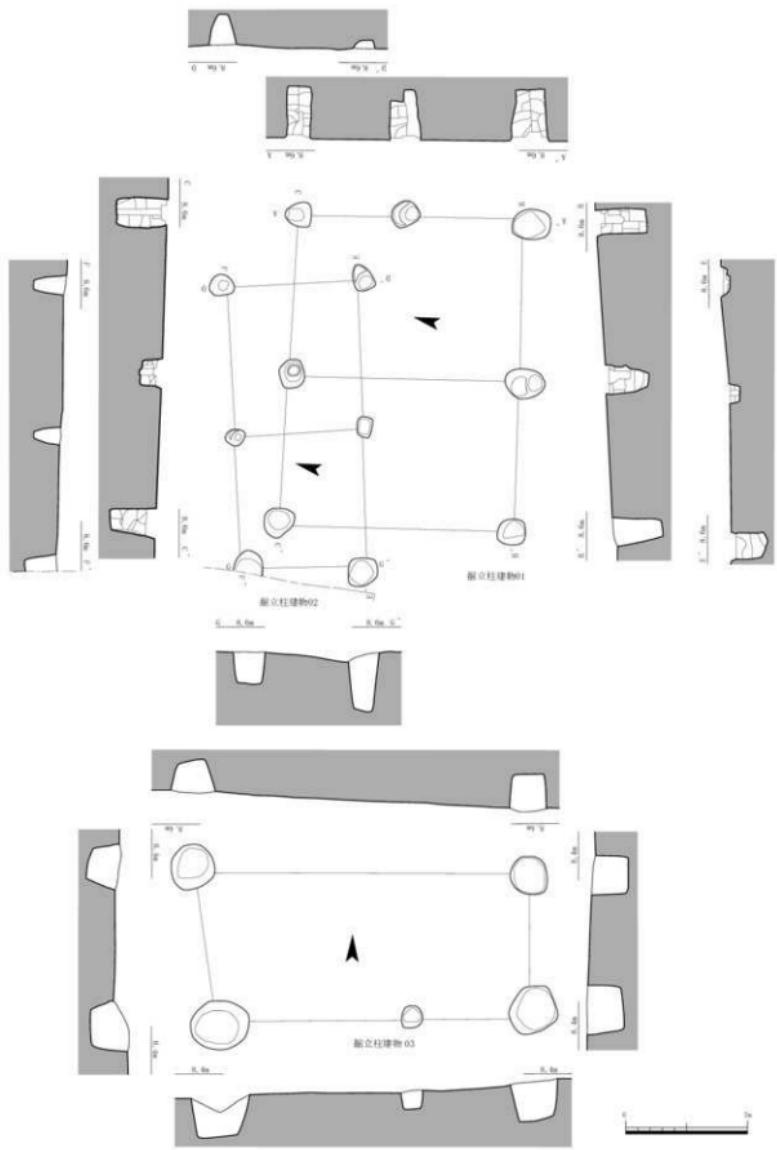
須恵器の坏身片、坏蓋片、土師器の坏片、青磁碗片などが出土しているが、いずれも碎片のため、図化できていない。

掘立柱建物03（第6図）

調査区北側で確認された1間×2間？の建物である。主軸方位はN-88°-Eである。梁行約240cmをはかる。桁行は約520cmをはかり、柱間は約200～300cmである。柱穴の平面形は円形で径約60～100cmをはかる。

出土遺物

須恵器の坏身片、坏蓋片、皿片、土師器の壺片などが出土しているが、いずれも碎片のため、図化できていない。



第6図 挖立柱建物01・02・03 (1/80)

2) 溝

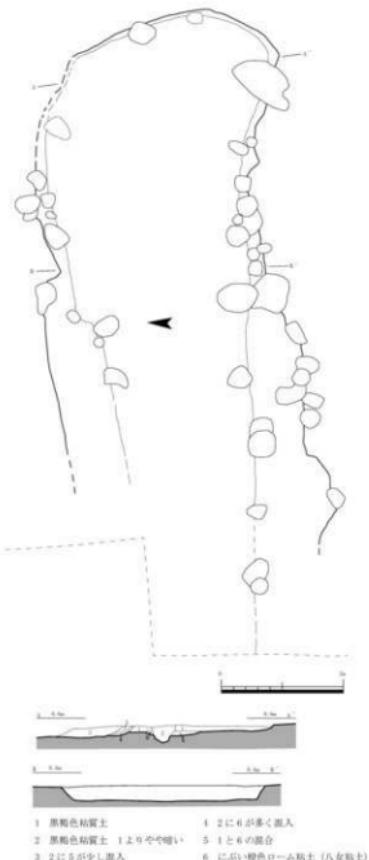
溝002（第7図、図版2）

調査区南側で確認された東西に延びる溝である。規模は確認できた分で全長10m以上、幅約4m、深さ約20cmをはかる。底は平坦である。覆土は黒褐色粘質土が主体である。掘立柱建物01・02に切られている。遺構検出の際、溝002を中心に広く黒褐色粘質土の包含層があり、調査当初は全体を包含層として認識していた。しかし包含層を掘り下げるにつれて溝の端を確認したことから、トレンチを空けて溝の壁と底を確認した。その段階をもって溝として認識した。そのため溝002として検出した面より実際はもう少し上面から掘り込まれていた可能性もある。さらに西側において溝の壁を明確に明らかにすることができなかった。ただ調査区の西壁で溝の覆土である黒褐色粘質土と壁の立ち上がりを確認できていることから、調査区外にさらに延びているものと考えられる。さらに南側において多くの柱穴・ピットに切られており、溝の壁及び底を確認するのに苦労した。

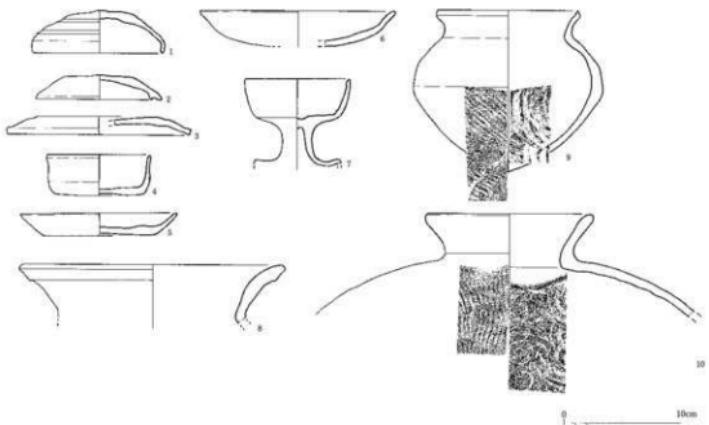
出土土器（第8図、図版3）

溝002からはコンテナ箱約4箱分の遺物が出土している。ただこれらすべてを掲載することは紙数の都合上叶わなかった。今回は代表的なものを図化し掲載することとする。

1・2・3は須恵器の环蓋である。1は口径11.2cm、器高は3.6cmをはかる。天井部と体部の境が稜をなさず、口縁部も丸くおさめている。調整は、天井部はヘラ切りを行ったのちにヘラ削りを行っている。口縁部から内面にかけては回転ナデ調整を行っている。焼成は良好である。胎土は密。色調は暗灰色を呈している。IV B期。2は口径10.8cm、器高は2.1cmをはかる。内面にかえりがついており、口縁部より短い。天井部はヘラ切りを行っており、外面体部から口縁部、内面にかけては回転ナデ調整を行っている。焼成は良好である。胎土は密。色調は茶褐色を呈している。V期。3は口径15.5cm、器高は1.5cmをはかる。天井部はヘラ切り調整を行っており、外面体部から口縁部、そして内面にかけて回転ナデ調整を行っている。さらに天井部内面は回転ナデ後ヨコナデを行っている。焼成は良好である。胎土は密。色調は灰褐色を呈している。VI期。4は須恵器の环Aである。口径は8.8cm、器高は3.5cm、底径は7.7cmをはかる。底部はヘラ切りを行っており、外面体部から口縁部、内面にかけては回転ナデ調整を行っている。焼成は良好である。胎土は密。色調は淡灰白色を



第7図 溝002実測図(1/80)



第8図 溝002出土遺物（1/4）

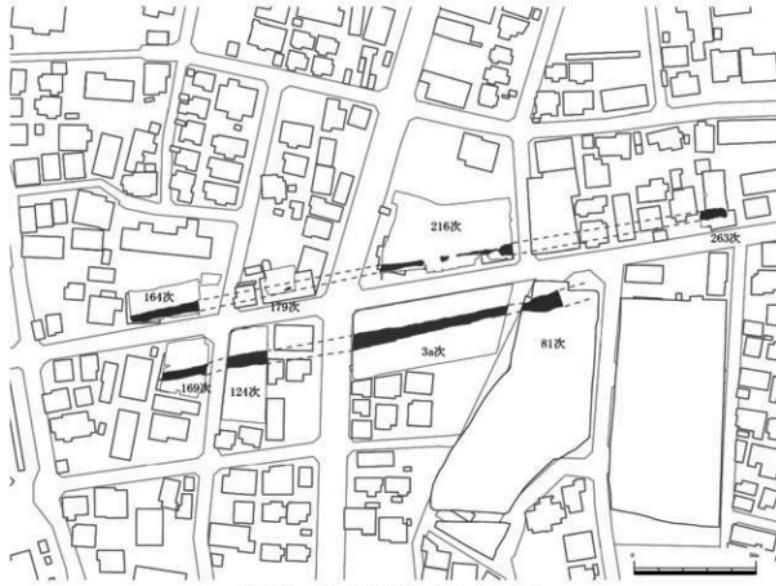
呈している。VI期。5は須恵器の皿である。口径は13.4cm、器高は19cm、底径は9.7cmをはかる。底部はヘラ切り調整を行っている。その他外面、内面ともに回転ナデ調整を行っている。VI期。6は須恵器の高杯か。口径は16.6cm、器高は3cmをはかる。底部はヘラ切り後ヘラ削りを行っている。その他、外面、内面ともに回転ナデ調整を行っている。焼成は良好である。胎土は密。色調は暗灰色を呈している。7は須恵器の高杯である。口径は9cm、器高は残存7.3cmをはかる。杯部の底部はヘラ切り後にナデ調整を行っている。その他の杯部、脚部は回転ナデ調整である。焼成は良好である。胎土は密。色調は暗黒灰色を呈している。VII期か。8は須恵器の壺である。口径は22.8cm、器高は残存で5cmをはかる。口縁端部に灰が付着しており。また重ね焼きの痕跡がある。調整は回転ナデ調整である。焼成は良好である。胎土は密。色調は暗灰色を呈している。9と10は須恵器の壺である。9は口径が12cm、器高13.8cmをはかる。壺の上半分は外内面ともに回転ナデ調整を行っている。下半分の外面は平行叩きを行っている。内面は円形當て具痕跡が集中的にあり、青海波模様をなしている。10は口径が14.3cm、器高は残存で8.8cmをはかる。口縁部から頸部にかけては回転ナデ調整を行い、体部外面が平行叩きで、内面は青海波模様である。

その他、多くの須恵器片、土師器片、韁の羽口、鉄滓、黒曜石などが出土している。

第3章　まとめ

今回の調査で検出した遺構は掘立柱建物3棟、溝1条である。ここではこれらの遺構の時期と性格を周辺の調査事例を交えながら、まとめていきたい。

掘立柱建物01・02は主軸方位が概ね東西方向に向いている。これは早良群衙関連の建物と同様な方位であり、これらの建物も群衙関連するものであろう。掘立柱建物01と02も重複しているが、遺構が切りあっておらず、また遺物からも前後関係は分からなかった。建物の時期は、遺物が碎片のた



第9図 古代官道関連の大溝（1/2000）

め明確な時期決定は難しいが、古代としておきたい。

溝002は幅4mをはかる大溝である。本調査地点周辺ではこのような大溝が数箇所確認されており、古代官道の側溝であると考えられている。溝002も第216次調査地点のSD01からの延長線上にあり、古代官道の側溝であると推定できる（第9図）。ただ他の大溝は標高10m前後で検出されているのに対して、溝002は標高8mで検出されおり、その標高差は大きい。同様に第179次調査地点でも、側溝と思われる溝が標高8m付近で検出されており、また周辺の検出面の標高差からいびつな道路が復元されることから、側溝としての認定に疑問が残されている。しかし第179次調査地点は開析谷の谷頭部分にあたり、本調査地点も台地の縁辺部に位置していることから、他の地点とは低い場所に道路があったと考えることもできる。

さて溝002の時期であるが、他の大溝は出土遺物から概ね奈良・平安時代頃であると考えられている。溝002も出土遺物から一部古墳時代後期頃も含まれているが、飛鳥・奈良時代以降のものが中心で、他の大溝よりやや古い。また埋没後に建てられた建物01・02の時期も古代の範疇に入ることからも溝002が側溝として機能していた時期は他の大溝と比べて短かった可能性がある。



(1) I区調査区全景
(西から)



(2) II区調査区全景
(西から)



(3) III区調査区全景
(東から)

(4) I 区調査区
東壁土層断面
(西から)

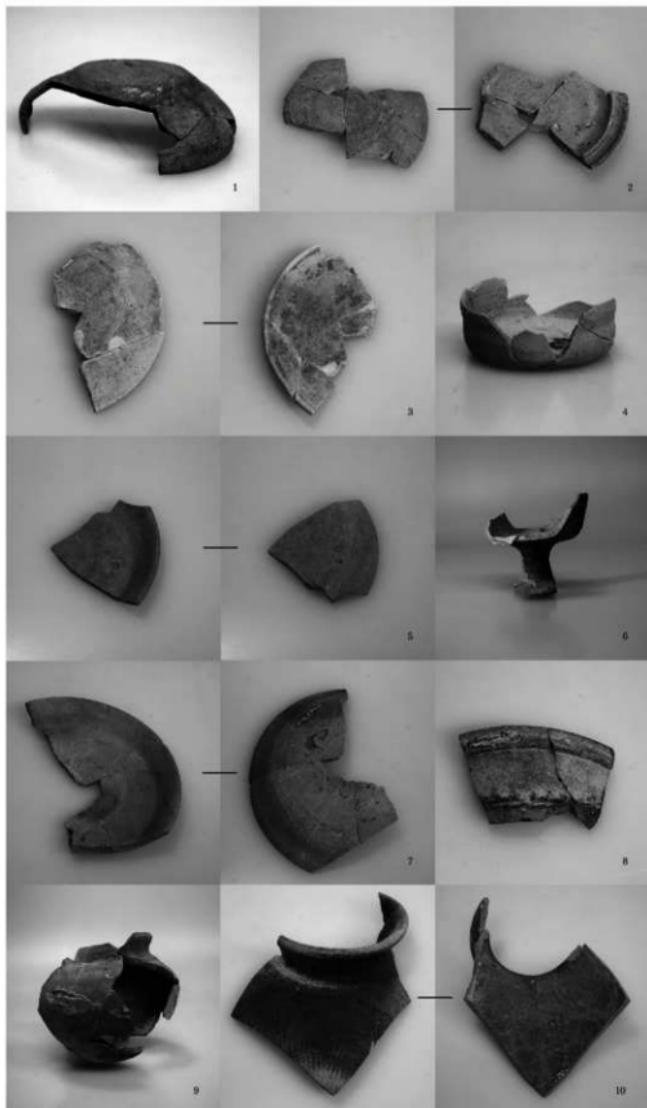


(5) 据立柱建物01
(東から)



(6) 溝002
(西から)





出土遗物

報告書抄録

ふりがな	ありた・こたべ58							
書名	有田・小田部58							
副書名	—有田遺跡群第263次調査の報告—							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1329集							
編著者名	山本晃平							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL 092-711-4667							
発行年月日	2018年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因	
ありたいせきぐん 有田遺跡群	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 さわらくこたべ58 早良区小田部2丁目58	40137	309	33° 33' 58"	130° 20' 12"	20160310 ～ 20160610	243	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
有田遺跡群 第263次調査	集落	古代	掘立柱建物3棟 溝1条	土師器、須恵器、陶 磁器、鉄滓	古代官道の側溝とそれ に後続する掘立柱建物			
要約	本調査地点は有田遺跡群の一一番東側に位置する台地の西側斜面上に立地している。幅4m、深さ約20cmの大溝が検出され、既往の調査事例から古代官道の側溝であると考えられる。またその側溝が埋没した後に群衆関連の建物群と主軸を同じくする掘立柱建物が建てられている。							

ありた
こたべ
有田・小田部 58

—有田遺跡群第263次調査の報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1329集

2018年3月26日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号
(092) 711-4667

印刷 城島印刷株式会社
福岡市中央区白金2丁目9番6号
(092) 531-7102